

試合観戦者の観戦行動類型—J リーグが地域に与える影響 (1) —

正会員 ○梶島 邦江\*  
正会員 山本 充\*\*

サッカー 観戦者 観戦行動  
生活時間 行動類型 クラスター

研究の目的と方法

Jリーグは今年で開幕 16 年目を迎え、観戦スポーツとして日本人の生活にもすっかり定着してきたように見える。しかし「地域密着」を目標にかかげる Jリーグ・クラブが、地域とどのように結びつき、地域に何をもたらしたのか。毎試合、スタジアムに足を運び、熱心に応援するサポーターたちにとって、サッカーとはどのような意味をもち、スタジアムはどんな「場」となっているのか。それ以外の人にとってはどんな存在なのか。まだまだ未知のことが多い。

本研究は、2006 年に報告した「試合観戦者の属性に関する研究—Jリーグ試合開催が地域へ与える影響 (1) —」「試合観戦者の観戦後行動に関する研究—Jリーグ試合開催が地域へ与える影響 (2) —」に連なる研究であり、Jリーグ・クラブあるいは Jリーグ・サッカーが地域に与える影響を、実証的に論じようとしている。本編は其中でも、ホームゲームの観戦行動を明らかにすることで、試合観戦が観戦者にとってどのような意味を持つ行為なのかを推察することを目的としている。

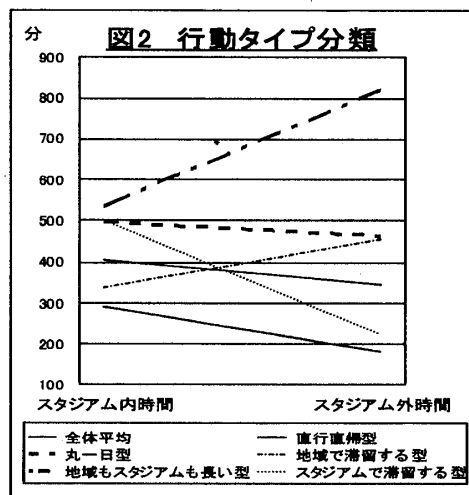
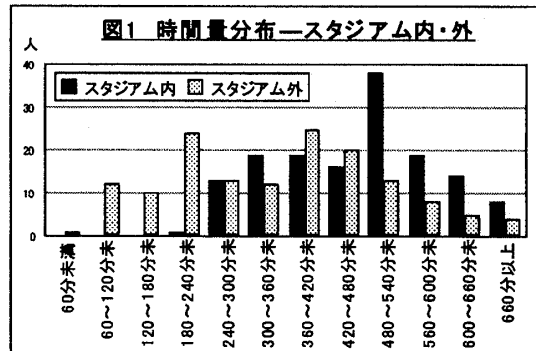
原資料は、2006 年 12 月に実施した「生活時間に基づく観戦行動調査」(表 1) より得ている。たまたま調査日は Jリーグ最終戦で、それも浦和レッズが優勝を決めた一戦であったために、今回の行動は特異日の浦和レッズファン・サポーターの観戦行動であり、日常のそれとは異なっていることをあらかじめお断りしておきたい。半年、一年に一度、あるかないかの優勝決定日の祝祭行動を知る貴重な資料ともなった。

観戦に費やされた時間

試合は埼玉スタジアム 2002、キック・オフは 14:00 であったが、観戦者が家を出た平均外出時刻は 8 時 53 分。一方、平均帰宅時刻は 22 時 02 分であり、この間平均 12 時間 32 分が当日の行動時間となる。このうちスタジアム内で過ごした時間は平均 6 時間 46 分、スタジアム外で過ごした時間は 5 時間 46 分である (表 2)。スタジアム内では「観戦」が最も長く 3 時間 14 分、ついで「待つ・探す」1 時間 22 分、「食事」56 分とつづく。一方、スタジ

表 1 調査概要

調査実施期日	2006 年 12 月 2 日
調査対象者	Jリーグ第 34 節 浦和レッズ vs ガンバ大阪 観戦者(入場者総数: 62,241 人)
調査対象行動	当日、家を出て、スタジアムで観戦、その後、家に戻るまでの一連の行動。
調査方法	スタジアムにて調査票を配布(配布総数 1023 票)。後日、郵送にて回収(回収数 147 票)。調査票は時刻表に「何を」「誰と」「どこで」行ったかを記入してもらう自由記入方式。
回収率	14.40%



アム外では「移動」が最も長く3時間15分、ついで「祝勝行動<sup>1)</sup>」が1時間07分を数える。

優勝決定日の行動としては、意外なほどスタジアム外の時間が短く、しかも「祝勝行動」「飲食」の時間を合わせても2時間弱に過ぎないなど、熱狂的でいささか「過激」とも言われるレッズのファン・サポーターの行動としては、気抜けさえするほどである。

観戦行動類型

更にこのスタジアム内時間量、スタジアム外時間量を変数にクラスター分析(K-mean法)を行った結果、以下の平均値を示す5クラスターを抽出し、それぞれ「丸一日型」(スタジアム内時間536.0分、スタジアム外時間820.3分。スタジアム内外共に滞在時間が長く、おおむね一日をかけて試合観戦を楽しんだタイプ)「地域もスタジアムも長い型」(479.3分、435.3分。丸一日型より総時間は短い、スタジアム内外共に長い時間を過ごすタイプ)、「直行直帰型」(277.6分、184.8分。まっすぐスタジアムに行き、試合が終わったらさっさと家に戻るタイプ)「地域で滞留する型」(291.0分、473.2分。地域で過ごす時間が長いタイプ)、「スタジアムで滞留する型」(499.1分、196.0分。スタジアムでの滞留時間は長い、試合が終わるとさっさと家に帰るタイプ)と名づけた(図2)。

行動タイプ構成は「地域で滞留する型」「地域もスタジアムも長い型」「スタジアムで滞留する型」「直行直帰型」にほぼ四分され、「丸一日型」は2.7%とごく少数であった(図3)。

この行動タイプ構成が示すものは、優勝が決まった日に地域内で「お祭り騒ぎ」に興じたのは約半数。残りの

半数はゲームに入れ込みはするものの、試合が終われば『日常』に戻る、冷静なファン・サポーター像である。行為別平均時間で得た『意外感』は、「レッズサポーター」という誇張されたプロトタイプに由来するものであったことがわかる。半面、膨大な数のファン・サポーターがスタジアムに集いつつも、その全員が必ずしも周辺地域との関わりを持つものではないこと、しかしそれは試合観戦が(仮に優勝決定の試合であっても)『必ずしも特別なこと』ではもはやなく、『日常』の一コマ、一場面として埋め込まれていること、すなわち『生活化』していることをもうかがわせる。

タイプ別属性

女性には「直行直帰型」がやや少なく、「スタジアム滞留型」がやや多い。年齢が上がるにつれ「直行直帰型」の比率が増し、「地域もスタジアムも長い型」は減少。「地域滞留型」が10台、60台を除き、年齢にはほぼかわらず一定数存在する。席種ではSS席、S席(共に指定席)は「直行直帰型」の割合が高く、「スタジアム滞留型」はいない。

この研究は、浦和レッドダイヤモンドとの共同研究として実施している。

1)「祝勝行動」は「騒ぐ」「盛り上がる」「号外をもらう」などと記入された行為

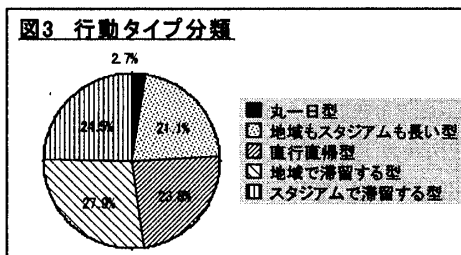


表2 行為別時間

		合計	食事	飲む	買い物	待つ・探す	暇つぶしの遊び	観戦	祝勝行動	トイレ・着替え	移動	その他	不明
		スタジアム内	total(分)	59713	8180	1050	929	12198	5154	28537	253	340	180
	sample	147	147	147	147	147	147	147	147	147	147	147	147
	Average(時分)	6時間46分	56分	7分	6分	1時間22分	35分	3時間14分	2分	2分	1分	4分	15分
	行為者数	147	95	16	22	97	52	147	3	10	4	7	26
	行為者率(%)	100	64.6	10.9	15	66	35.4	100	2	6.8	2.7	4.8	17.7
スタジアム外	total(分)	50825	3727	2962	1533	675	925	292	9855	72	28739	1295	750
	sample	147	147	147	147	147	147	147	147	147	147	147	147
	Average(時分)	5時間46分	25分	20分	10分	5分	6分	2分	67分	1分	3時間15分	9分	5分
	行為者数	147	44	20	54	16	18	3	60	3	147	13	9
	行為者率(%)	100	29.9	13.6	36.7	10.9	12.2	2	40.8	2	100	8.8	6.1

\* 埼玉大学教養学部・教授  
\*\* 埼玉大学教養学部・教授

\* Prof. Faculty of Liberal Arts Saitama University. D Eng.  
\*\* Prof. Faculty of Liberal Arts Saitama University. D. Sc